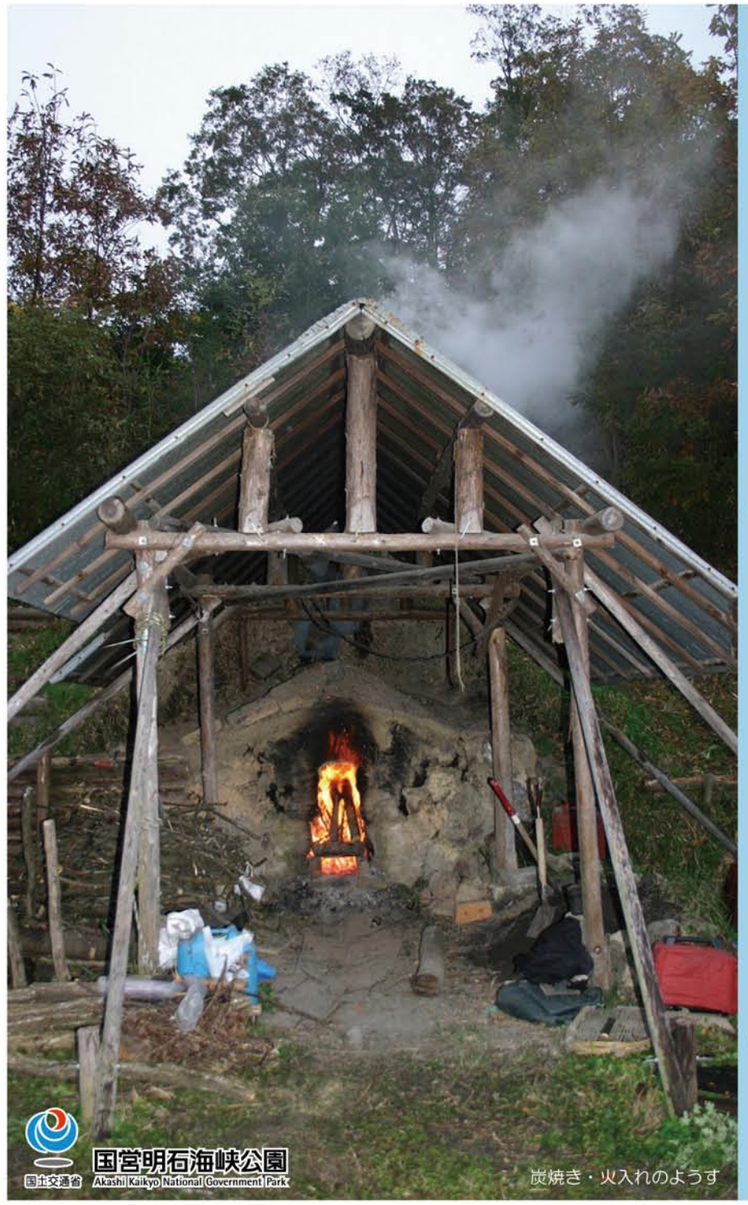
第25号
2006年12月発行

あいな里山公園情報

～国営明石海峡公園神戸地区だより～



炭焼き・火入れのようす

トピックス

● 里山を舞台にした取り組み
● 第４回ＭＰ検討委員会
● 外来種と生態系
● あいな里山公園における環境教育とは

冬のあいさつ

寒くなって、温かいモノが恋しい季節になってきました。現場事務所（藍那山荘）には薪ストーブが設置されていて、これからの季節、里山整備によって発生した薪で暖をとる日々が続いていきそうです。

同じく、炭焼きもこれからが本格的な季節に突入します。寒い空気の中を、１本の煙が昇っていく情景は、なんとも風情を感じるものです。消臭、吸湿、防音と色々な効果が期待されている炭ですが実際に、まっすぐ綺麗な炭を焼くには、かなりの技術が必要だそうです。

製作・発行

国営明石海峡公園事務所 神戸地区現場事務所
〒651-1104　神戸市北区山田町藍那字伝庫14
TEL(078)593-3943　FAX(078)593-3944
kobe@kokueiakashi.go.jp
http://www.kokueiakashi.go.jp

外来種と生態系

セイタカアワダチソウ、ブラックバス、ウシガエル、アメリカザリガニ、ブルーギル…
あいなの里山も、外来種問題は避けられない状況になっています。

かい掘り作業のようす

国営明石海峡公園神戸地区には希少な動植物が生息しています。しかしその一方でブラックバス等の特定外来生物の生息も確認されています。

平成１８年１１月４日に「ため池・湿地帯の生き物保全グループ」によって、園内のため池の一つで生物調査を目的とした「かい掘り」が行われました。

「かい掘り」というのは、ため池の水を抜いて、ため池の補修や池底の泥を取り除く作業のことです。

その結果、ブルーギル、ブラックバス等の外来種が確認されました。（水を抜いた状態で網ですくうと、驚くほどに外来生物しか生息していない状況でした）

これらはほぼ持ち込みによって繁殖したものと考えられます。

当公園の貴重な自然を保全するために、これらの外来生物を持ち込まないようお願い致します。

次回の発行は２月上旬頃の予定です

捕獲された外来種

ため池・湿地帯の生き物保全グループのみなさん

あいな里山公園における環境教育とは　～「環境と生命(いのち)」教育を通して～

環境教育は、環境問題を解決するためだけの教育ではなく、その考え方はもっと広く、まず「心豊かな若者たちを教育する」ことであり、次にその結果、もし環境問題が生じたり生じかけたりすると、「感性が鋭敏な若者」は心が傷み「主体的に環境活動を行なう」、そのような若者を育てることである。

そして環境教育の目的は「環境と生命」の教育を通じて持続可能な循環型社会を実現することである。そのためには、自然環境、社会環境、心の環境すべてに関わる「人間の環境」をそれぞれの分野で陶冶することである。

環境教育の諸目標を達成するために、自然環境であれ、社会環境であれ、さらに心の環境であれ、それぞれの環境の一つのテーマを選び深めることで、つまり登る道は違っていても、同じ山の頂上（持続可能な循環型社会）に達するであろう。たとえば里山の一羽の小鳥の観察から出発して、鳥とその食性との関係、鳥が生息する生態系、さらに人間との関わりへと広げることができよう。

こうした自然における環境と生命の教育を通じた原体験が、学校で学んだ「知識」を生きた「生活の知恵」に変えるのである。その場合のテーマは、里山活動を通じて、自然の生態系と里山の環境文化を主要な内容とすることができる。かつて里山の生活は町や都会の生活とも深く結ばれていたことを知り、循環型社会であったことを学ぶことができる。

こうして、子どもたちや市民はあいなの里山における環境教育の活動によって、自然の仕組み、農作業、環境文化などを知ることができる。具体的には、自分たちが米や野菜を植え、世話をし、そして収穫する体験を通じて里山の暮らしを都会の人たちが体験することができる。したがって「あいな里山公園」は、都市の人たちにとって、いわば第二の心の故郷となろう。さらに、そのような自然生態系について知るローカルな環境活動から、ネットワークを広げてグローバルな地球環境問題の解決へとつなげることができよう。そのネットワークの出発点は、すでに活動している団体と手をむすび協働（パートナー）を組むことである。

ひょうごオープンカレッジ甲南大学コース（主催：ひょうご大学連携事業推進機構）（２００６年１２月３日）

甲南大学環境総合研究所
所長　谷口文章

里山を舞台にした取り組み

里山での総合学習

世界には、日本のように、物に不足しない暮らしが出来る国もあれば、戦争や貧困にあえいでいる国も多くあります。

明石市の衣川中学校では、総合学習の時間に国際的な視野を広げる授業を行っており、その一環として、里山を使ったプログラムを実施していました。このプログラムは、ユニセフパークプロジェクト（ＵＰＰ）のファシリテーター（ＵＰＰのスタッフの事）有志により企画・運営されたもので、戦争や地雷、子どもの教育や労働について学べるプログラムになっていました。

体験活動の始まり

屋外での講座

埋められた地雷を見つける事がどれだけ大変かを体験し、さらに地雷によって、身体が不自由になってしまう現実を知り、その地雷を撤去するのに莫大な費用がかかる事を学んでいました。

また、世界中の全ての人が水道から当たり前のように、水を飲める訳ではありません。

水汲みを日課にしている小さな子どもが大勢います。

幼い子が水を汲んでいる現実とその大変さを身を持って知ってもらう為、中学生たちには２０リットルのポリタンクに川の水を入れ、坂道を運んでもらいました。はじめは、「こんな重いのは無理」と言っていた中学生も、ファシリテーターからの「この前みたビデオでは、小学生くらいの子が運んでたやろ」と言われ、少し神妙な面持ちになり、力を振り絞って最後まで運んでいました。

水運び体験

彼らにとっては、里山の景色より、水の重さの方が心に残っているかも知れませんが、それも大切な学びではないでしょうか。

炭焼きと子ども会

炭に白炭と黒炭の２種類あるのをご存知でしょうか。窯の中で熱を下げ、冷えた状態で取り出す黒炭に対し、高温の状態で取り出して、砂などをかけて急激に冷ます物を、白炭と呼んでいます。

あいな炭焼きくらぶでは、この様子を子どもにも知ってもらおうと、１１月１８、１９日と連続で神戸市子ども会連合会の子ども達に、初日は黒炭、２日目は白炭のそれぞれの炭出し体験を行っていました。

黒炭取り出しのようす

つる細工

藍那に伝わる食文化の復活と、来園者への食事の提供を目標に活動されているあいな茶屋では、食事だけでなく、染め物など里山文化全般に対して取り組んでいます。

今回は、里山に繁茂し、邪魔者扱いをされる事もある『つる』の細工をテーマに掲げ、１１月２３日に北区役所（神戸市）との共催で行われました。

今にも雨が降りそうな天候だったため、藍那公民館での開催になりましたが、約２０組の親子が、思い思いにリースや籠などを編みこんでいました。子ども達の周りは、さながら一足早いクリスマスといった雰囲気に包まれていました。

つる細工のようす

パーマカルチャー

自然との共生には、様々な形があり、そのひとつに、オセアニアを中心に多く事例を持つ、パーマカルチャーと呼ばれる考え方があります。永続的な文化を意味する造語で、自然の中で持続的に暮らす知恵を体系化したものです。

畑の作り方も伝統的な日本の方法とは異っている為、一見、奇異に映るかも知れませんが、形や手順にも意味があるそうです。参加者はその一つ一つの理由を聞きながら、出来上がった畑の姿に満足そうな表情を浮かべていました。

ハーブを植えるのに適した「スパイラルガーデン」

環境教育フィールドワーク

甲南大学総合環境研究所では、里山をテーマにした「ひょうごオープンカレッジ」を開催しており、連続講座内の２回を神戸地区で実施されました。

あいにくの雨模様となった１週目でも雨対策をしてフィールドに出かけ、秋の里山を見ていただきました。

午後の座学では、多様な生物が存在する事の意味、そして人が自然と関わりについて、先人から学んだ知恵や風習などを交えて、これからの、里山のあり方について紹介していました。

２週目は里山でのものづくりと試食。午前は、里山での活動について話しながら歩き、午後は茅葺の民家でもち米を蒸すところからはじめ、杵と臼とで餅をつき、里の恵みを味わっていました。

フィールド講座のようす（12/3）

座学のようす（11/26）

第４回マネージメントプラン検討委員会

本年度初のマネージメントプラン検討委員会。新しくなった委員１０名（１名欠席）により、議論が行われました。

前年度（平成１７年度）３月から、約半年振りに行われたマネージメントプラン検討委員会。神戸地区の開園時における管理・運営計画を検討する場です。

本年度からは委員も新たになり、３月に策定されたマネージメントプラン試案の課題確認をしました。

今後、アクションリサーチ等、現地調査を通じた検討を進めていくことが確認されました。

マネージメントプラン検討委員

委員長：中瀬　勲（兵庫県立人と自然の博物館副館長）
委　員：赤澤宏樹（兵庫県立人と自然の博物館）、金子忠一（東京農業大学教授）
谷口文章（甲南大学総合環境研究所所長）、堤　幸一（京都精華大学）
橘　俊光（兵庫県）、割田耕造（神戸市）
長谷川清弘（国営明石海峡公園管理センター長）
鈴木修二（国営明石海峡公園事務所長）
欠　席：片寄俊秀　（関西学院大学）